

明法中学・高等学校

MEIHO Global Endeavors

動き始めた GE

「明法GE通信」は魅力あるGEの具体的な教育内容をお知らせするために毎月20日に発行いたします。また、明法GEのホームページでもご覧になれます。

夏休みのため、次回5号は9月20日発行の予定です。



明法GEより

1学期が終了しました。主なGE講座としてロボット3回、ディベート3回、スケッチ1回、調べ学習3回の計10回。校外活動は社会科の工場見学（地域調査）、ディベートの地区予選見学、そして選抜メンバーによるディベート大会出場という充実した3ヶ月間でした。彼らはこの間、ネットのマナー、質の高い確かな情報を得るための手段、自分の考えを人に伝えるテクニック、数値の重要性、物事を論理的に考えることなど、これからの基盤となる多くのことを学びました。

それぞれの分野の一線で活躍する講師と、細やかな指導体制によるGE講座は今学期だけでも延べ35時間に及び、彼らの好奇心と向学心を育てています。

2学期にはJAXAから講師をお招きして宇宙についての講義、3学期は桂小文治師匠による落語講座などが予定されています。また、校外活動としてディベートコンクール秋季大会やロボカップジュニアへの出場。12月には一流のバレエ公演鑑賞など、充実した魅力あるメニューが用意されています。今後も明法GEにご期待ください。

目次：

明法GEより	1
校長挨拶	1
CEDより	2
GE講座	2・3
ディベート大会の見学	3
先生からのメッセージ	4
体験学習会のお知らせ	4



校長 大谷泰造

4月9日の入学式から3ヶ月、毎日の通学だけでも大変！授業や部活をやっていけるのだろうか？という不安も、今では解消。嵐のような日もありましたが、それを乗り越えて通学、中学生の逞しさが備わってきました。昼食時にはお母さんの愛情弁当を、おしゃべりしながら美味しく食べています。先日の食堂指導後は、午前授業の日は食堂解禁。大盛り（麺2倍）+50円、特盛り（麺3倍）+100円に挑戦する人も出てくると思います。

「マッチ棒」を使った問題が出たとき、「マッチ棒って何だ？」という声。インターネットで学習をする「技術」に優れる生徒も、意外なことを知らない。かつて星座の観察のとき北斗七星を見て「本当にあるんだ！」と感動してくれた中1を思い出しました。様々な経験をして大きくなるんだ。分かったときの感動こそが新たな意欲を生み出すんだ。「感動を大切に」して欲しいと思います。

GE講座では、ロボットの扱いも手慣れてきましたね。これからはより高度な課題に取り組むことでしょう。ディベートは大会出場を目指して練習してきました。難しい言葉「反駁」なども前後関係から理解していました。私は驚きましたが、ディベートの波及効果としては、文章力の向上があるということです。漢詩を覚えるなど、各教科の先生の工夫を凝らした授業は、皆さんの心と頭に響き、皆さんを大きく成長させていることでしょう。この夏休み、宿題をきちんとやり1学期に学習したことを復習、部活などを頑張る「心技体」を鍛えてください。特に「心」は広く深く温かく。

CED（最高教育責任者）

北原 達正



今月は、明法GE 最初の対外コンテスト「ディベート甲子園」にチャレンジします！GE講座で選抜されたメンバー6名にサポートメンバーを加え、さらにだれでも参加可能な形にして毎週放課後特訓をする時間を設けました。毎回参加している子どもたちには明らかな変化が見られます。

まず受け答えの反応が良くなりました。与えられた【言葉】に対して、有意な返答が出せるのは、とても重要です。また、多くの参加者は情報をまとめる力がしっかりしてきました。耳で聞いた情報を素早く箇条書きにまとめて、論旨を把握できる力がついていることが、われわれ以外の方にもわかるくらいに向上してきました。何よりうれしいのは、選抜メンバーからは外れてしまいましたが、すべての放課後特訓に参加した生徒がいたことです。やればやるほどうまくなっていて、すでに選抜メンバーと遜色ないくらいまでになっています。

「本人のモチベーションと継続できる環境を作れば、世界に通じる力がつく」まさにGEの理想の姿の一端を見えています。

今月のGE講座

6月25日 ディベート（第3回） 講師 西部直樹先生 「日本は捕鯨を禁止すべきである。是か非か」について

3限 今まで調べたことにさらに情報をプラスするために、リンクマップを作成しました。

立論の作成では西部先生の発問に対して、捕鯨を禁止することのメリットとして、シーシェパードから受ける攻撃を回避できる。鯨の絶滅を回避できる。日本の国際的な地位の向上などが挙げられました。

資料の収集に際して、特に数字は信頼のおけるサイトから得ること。その他の情報も公共団体など大きな組織の信頼性の高いものを使用すること。というアドバイスがありました。肯定側（メリット）は重要性。否定側（デメリット）は深刻性を主張することになります。

4限 1争点ゲーム（ひとつの争点のみを反駁し合うゲーム）

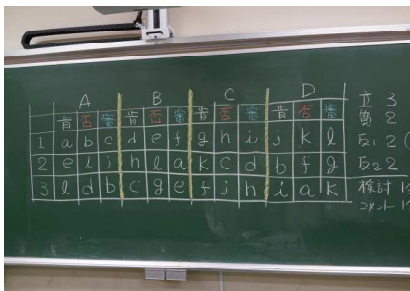
4人で1グループを作ります。対戦は1対1で行い、残りの2人は審判になります。

①1グループ内で、1戦目の組と2戦目の組に分けます。②1戦目、2戦目の組の中で、肯定側・否定側を決めます。さらに、先行・後攻を決めます。③先行者は、主張するメリット（デメリット）をひとつ決めて、それを後攻に知らせます。この時、メリット（デメリット）の発生過程まで知らせる必要はありません。④それぞれ準備をします。⑤準備時間が終了したらゲーム開始です。⑥ゲーム終了後、直ちに審判は拳手で判定を提示します。対戦者同士、握手をしてゲーム終了です。

西部先生より。「審判は質問しない」「審判に聞こえないのは話し方が悪い」「必ず反論するためのメモを取る」「相手の反論を予測する（しないと対応できない）」などの注意がありました。

時間の中で3～4ゲームが行われていました。終了後の判定は2名の審判が勝者を指さす形で進めていましたが、ほとんど2名の判定が一致していたようです。

5・6限 午前中の振り返り。肯定・否定・審判の3名のグループでディベートを行いました。



争点ゲームの対戦表



立論作成のためのデータ収集



争点ゲームのアドバイス



SRC（スペースロボットコンテスト）のコース



レポートの書き方について



ロボットのプログラミング

7月2日 GE講座 1学期のまとめ・ロボット

「脱法ハーブ」「御堂筋の暴走」「集団的自衛権」などについて指名して意見を求めると、それぞれが自分の知識レベルで答えていました。何かを問われた時、即座のレスポンスを求められる機会は多く、そのためには日常から自分の身の回りのニュースや社会情勢などに興味を持ち、常に情報収集をするアンテナを持つことが大切です。（知らないことは語れない）

ロボット 課題は去年の3月に京都で行われたミニコンテストと同じもの（Cn2・Cn5・Cn6の3つのラインセンサー）を使用し、コースアウトせずに2周する。次の課題は50秒以内で3周する。授業時間内で11名がクリアしました。

5・6限 午前中の振り返り

プログラム数値の修正方法について、ただ何となく出来た人もいましたが、論理性と、数字を持つ意味を考えることが大切です。

フローチャートの使い方について説明がありました。

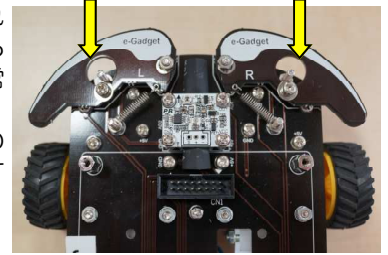
フローチャート（プログラムの流れを正確に把握し、内容を第三者に伝えやすくするための図）

課題 ペットボトルの迂回 Cn3とCn4のタッチセンサーを使って、何かに当たると後退して方向転換する。7名がクリア。

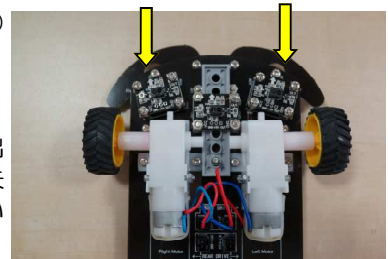
課題 コースの銀紙の部分で3秒止まる。これは時間切れでした。

この日の課題はかなり難度が高く、多くの生徒がクリア出来ませんでした。授業の終わりに「出来ないことが悔しい」と思う気持ちが大切、それが次へと確実につながるとのこと。また、失敗が大きな意味を持つという話がありました。また長期休業を前に、インターネット利用について注意がありました。

Cn3・4（タッチセンサー）



Cn5・6（ラインセンサー）



ディベート大会の見学

2014年6月29日

明法GE 中学1年

K君

僕はディベートの試合見学に行きました。見学する前は単に「相手は強いだろうな」とか、「1勝も出来ないような相手ばかりなのではないか」と思っていました。しかし、なによりそれらの相手に勝つにはどう攻めたらいいのかと考えて、試合から学ぼうと思いました。先生は「立論や反駁でどんなことを主張しているのか」とか「主張に対する審判の意見とアドバイス」を聞いておくと良いと言っていたので、特にその2点に注意して聴きました（メモしました）そして、今回の見学で分かったこと・感じたことは次の4点です。

- ① 具体例を挙げて話すと良い。
- ② 2つくらいの主張を出来るだけ深くすると良い。
- ③ 質疑、反駁では「なぜそう言えるのか」「本当にそうなのか」を突くと良い。
- ④ 話し方で勝敗が左右される。

①の「具体例を挙げて話すと良い」というのには、大きく2つの効果があることに気がつきました。1つは審判の共感を得やすく、自分の主張も深く納得してもらえることです。2つめは自分の主張に強いインパクトを持たせたり、相手の主張のインパクトを弱くすることが出来ることです。例を挙げて説明すると、

(1) 調査捕鯨で年間10億円の費用がかかる。これは税金の無駄使いだ。税金を無駄にする捕鯨は必要ない。



(2) 調査捕鯨で年間10億円の費用がかかる。10億円あれば被災地に仮設住宅170戸、又は学校を3校建てる事が出来ます。こんな高額を無駄に使う捕鯨は必要ない。

この例を見比べてみると(2)のほうがわかりやすく、そしてインパクトがあります。

②の「2つくらいの主張を出来るだけ深くすると良い」というのは、簡単に言うとディベートは「浅く広く」より「狭く深く」が大切だと言うことです。たくさんの主張を並べても、その主張から※3要素のどれかが欠けていたり、インパクトに欠けていれば、そんな主張は簡単に破られてしまいます。どんなに長い壁を作ってもその壁がハリボテだったら意味がないのです。一方、幅が狭くても※3要素を欠かさず、インパクトのある主張なら簡単には破れないでしょう。短い壁でも大切な部分がしっかり守られている分厚い壁なら壊されにくいのです。

③の「質疑、反駁では『なぜそう言えるのか』『本当にそうなのか』を突くと良い」は、相手の主張を攻めるときの要です。根拠が曖昧な相手の主張に対して、真剣に議論するより、「そもそもそう言えるのか？」を聞いた方がとっと早いのです。それに対して相手が反論しなければ相手の主張は成り立たないし、残り時間で自分の主張を補強したり、相手の他の主張を攻めたりも出来ます。この見学は、新しいいろいろなことを知ったり、理解を深めることが出来たので、とても有意義であったと思います。とても敵わないようなチームもあれば、何とか勝てそうなチームもあったので、2勝くらいはしたいと思います。頑張ります。

（講評）ディベートの技術である、サインポスティング（どの部分について述べているかを明確にすること）とナンバリング（議論に番号を付けて整理すること）を用いている、大変わかりやすく整理出来た文章です。

※3要素＝現状分析・発生過程・重要性

春、13人の名簿を手し、パソコンや教室の準備をした日のことを思い出します。入学式から三ヶ月が経ち、子どもたちの顔つきも4月よりずっと大人らしくなってきました。これまでのGE講座では主に、調べ学習、ディベート、デザイン、ロボットを扱いましたが、いずれも「他者から評価される自分」という点に重きがおかれていました。授業では常に順位づけされ、自分がクラスでどのような評価をうけているのかが明白になり、シビアに感じる面もあったかと思えます。ICT教育の実践にあたっては、日頃ご家庭の皆様にご理解をいただき感謝しております。私は2003年に導入された情報の授業も受けて育ちました。しかし、そこで習ったのはあくまで機能としての情報であり、実用性に欠いたものでした。実用的というのは、単にWordが使える、メールが送れる、インターネットを利用できるということだけではありません。マナーや礼儀、倫理観を持ってそれらを利用できるかどうかだと考えています。実用的なICTの利用方法を義務教育の段階でしっかり学べるのがGEの魅力のひとつです。ここで得た知識や体験は、将来必ず子どもたちの自信に繋がるはずですし、まさに時代に合った教育だと考えています。これから彼らがどのような成長をみせるのか大いに期待しています。

仙台白百合学園高等学校を卒業。在学中、文芸部に部誌『紫苑』の制作に携わり、全国高等学校文芸コンクールにて最優秀賞・文部科学大臣賞、ほか富士正晴全国高等学校文芸誌賞最優秀賞を受賞。小熊座の俳人である高野ムツオ氏に俳句の指導をうける。ロボカップジュニアジャパン全国大会に出場し、のち「子どもの理科離れをなくす会」でサポーターとして活動。白百合女子大学文学部国語国文学科を卒業。安部公房の初期短編『天使』で卒業論文を執筆。小学校教諭、中学校教諭(国語)、高等学校教諭(国語)、司書教諭の免許を取得。

GE体験教室・学校説明会

学校説明会への参加は、予約の必要はなく、対象学年の制限もございません。また、体験学習の見学及び個別相談も承ります。

プログラム1 初めて参加する方

9月14日(日)

火星探査ロボットを動かしてみよう!

衝突センサーを使ってクレーターからの脱出!
コンピュータ内蔵の自律型ロボット教材を使って、火星探査ロボットや月面基地建設のロボットの機能をプログラミングします。

講師 北原 達正 明法GE CED (Chief Educational Director最高教育責任者)
京都大学理学部卒。同大学院博士課程にて宇宙物理学を専攻。京都大学他で講師(非常勤)を歴任。ロボカップジュニアジャパン理事、文科省21世紀プラン大津市科学教育推進委員長、子どもの理科離れをなくす会代表。10年以上にわたり全国各地で理科教育推進事業に関わる。この間、ロボカップジュニア世界チャンピオンを育てている。

プログラム2 前回参加した方

宇宙飛行士が必ず行う訓練に挑戦してみよう!

管制官と宇宙飛行士になってブラインドコミュニケーションに挑戦。情報を正確に伝えるにはどうすればいいか実践で学びます。
※ブラインドコミュニケーション=音声だけで正確に情報を伝える技術

講師 柴藤 亮介 明法GE CED (最高教育責任者) 特別補佐
東京都立大学(現・首都大学東京)理学部卒。首都大学東京大学院博士課程修了(博士論文提出中)。大学、大手予備校等で講師を勤めるかたわら、学校教育プログラムの開発・運営を手がけるエデュケーショナル・デザインを設立。今回、明法GEの教育理念を推進すべく、北原CEDの特別補佐として活躍。

- ▶対象学年：小学6・5年生
- ▶会場：明法中学・高等学校
- ▶定員—

プログラム1に参加される方：午前の部、午後の部 各40名
プログラム2に参加される方：午前の部、午後の部 各20名

▶申込方法：事前予約制

7月25日(金)10:00～9月10日(水)12:00
明法GEのホームページから予約フォームにお入りいただき
お申し込みください。

<http://www.meiho-ge.ed.jp> (トップページ下段から入れます)

体験教室
開催時間

午前の部10:00～13:00(受付 9:30～)
午後の部14:00～17:00(受付13:30～)

学校説明会
開催時間

午前の部10:00～12:00
午後の部14:00～16:00



明法中学・高等学校

MEIHO Global Endeavors

〒189-0024

東京都東村山市富士見町2-4-12

TEL:042(393)5611

FAX:042(391)7129

<http://www.meiho-ge.ed.jp>